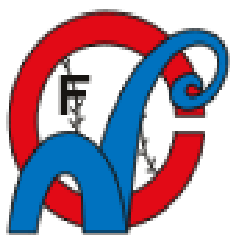


新型コロナウイルス感染防止対策 ガイドライン

令和3年度秋季千葉県高等学校野球大会予選・敗者復活戦

2021年8月3日現在



一般財団法人

Chiba High School Baseball Federation

千葉県高等学校野球連盟

(一財) 千葉県高等学校野球連盟新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

1 【はじめに】

依然、新型コロナウイルスの感染状況は厳しく、政府は区域を限定し緊急事態宣言やまん延防止等重点措置を行い、感染拡大と医療崩壊を防ぐ策を講じています。改めて、高校野球は「教育の一環」という大前提を踏まえ、部員の安全・安心及び、大会に関係する方々の安全が大会運営上、最優先されるべきだということを大会に関わる全ての方々と共通認識を持ちたいと考えております。

本ガイドラインは、日本高等学校野球連盟からの通達及び現段階で得られている知見等に基づき作成しています。

大会関係者からクラスター、2次感染、3次感染を発生させない対策や、可能な限りの追跡調査ができるような大会運営を目指します。なお、今後の知見集積及び各地域の感染状況を踏まえて、本内容は修正する場合がありますことにご留意ください。

2 【原則】 本大会のすべての試合は、無観客試合とする。(大会関係者・顧問・部員以外入場禁止)

1. チーム関係者は試合、移動等にあたって、新型コロナウイルス感染防止対策の基本となるソーシャルディスタンスを確保すること、密閉（換気の悪い空間）、密集（多くの人の密集）、密接（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や大声での発声）を徹底的に回避し、マスクを着用すること等を常に意識しながら行動することとする。
2. 開催前、開催中に関係者から感染者が発生した時の対応方針について、関係各機関とあらかじめ検討しておく。
3. 試合と直接関係のない人の来場を極力避ける。
4. 移動前の検温徹底とバスなどによる移動時の換気や座席配置、空間遮断による濃厚接触の回避。
5. 役員、チーム関係者などから感染の疑いが生じた場合や不測の事態に備え医療体制を整備する。
6. 大会終了後、役員、チーム関係者から感染の有無について出来る限り情報を収集し効果について検証するよう努める。
7. 試合前後のミーティング等においても3つの密を避ける。
8. 罹患が発生した場合、本人が発症2日前から現時点での行動歴を明らかにすることが重要である。運営役員、記録員、審判委員、参加校指導者、部員ほか試合に係わる全ての者は、試合開催2週間前行動歴（いつ、どこに行き、誰と会ったか）を記録しておくこと。

3 【感染予防対策】

感染拡大防止のため、大会に携わる全ての参加者が遵守すべき事項を以下のとおりとする。なお、協力を得られない参加者には、他の参加者の安全を確保する等の観点から、大会への参加を取り消したりすることがあることを事前に周知すること。また、厚生労働省が開発した新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の登録を推奨する。

(1) 注意事項の事前周知について

以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること。

- ・体調がよくない場合。（例：発熱・咳・咽頭痛・倦怠感・味覚嗅覚障害などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。（濃厚接触者は、自宅待機とし、それ以外の指導者・部員で試合参加可）

- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。

4 【球場に入る際の感染予防策】

(1) チーム関係者

- ① 各校の責任教師は、「検温確認表（チーム用）」を試合当日、球場責任者に提出する。
起床直後及び出発前に検温を行い、37.5 度以上あった者は球場への入場を禁止する。
- ② 関係者入口に体温計を設置し、体温が 37.5 度以上と反応があった者は球場への入場を禁止する。
また、発熱がなくても息苦しさ（呼吸困難）や強いだるさ（倦怠感）などがある場合も入場できないこととする。
- ③ 関係者受付（入口）でアルコール消毒液による手指消毒を行う。
- ④ マスク着用を義務付ける。（フェイスシールド・マウスシールドのみは不可）

(2) 大会関係者

- ① 関係者受付（入口）で検温を行い、37.5 度以上あった者は球場への入場を禁止する。また、「検温確認表（連盟）」に必要事項を記載し、体調不良等の症状がある者については、連盟が当事者に内容を確認のうえ、球場への入場可否を判断する。また、発熱がなくても息苦しさ（呼吸困難）や強いだるさ（倦怠感）などがある場合も入場できないこととする。
- ② マスク着用を義務付ける。（フェイスシールド・マウスシールドのみは不可）

(3) 報道関係者

- ① 関係者受付で、検温を行い、37.5 度以上あった者は球場への入場を禁止する。また、「検温確認表（報道関係者）」に必要事項を記載し、体調不良等の症状がある者については、連盟が当事者に内容を確認のうえ、球場への入場可否を判断する。また、発熱がなくても息苦しさ（呼吸困難）や強いだるさ（倦怠感）などがある場合も入場できないこととする。検温後は連盟発行の検温確認シールを必ずつける。
- ② マスク着用を義務付ける。（フェイスシールド・マウスシールドのみは不可）

(4) 学校関係者（控え部員引率教職員・バスドライバー）

- ① 「検温確認表（応援席用）」を試合当日、球場責任者に提出する。ただし、起床直後及び出発前に検温を行い、37.5 度以上あった者は球場への入場を禁止する。また、体調不良等の症状がある者については、球場責任者が当事者に内容を確認のうえ、球場への入場可否を判断する。検温確認表への記載は全員を対象とする。また、発熱がなくても息苦しさ（呼吸困難）や強いだるさ（倦怠感）などがある場合も入場できないこととする。

5 【チーム関係者の感染予防策】

責任教師、監督、コーチは新型コロナウイルス感染防止対策を念頭に置きながら選手を指導する。

(1) 球場への移動

- ① 部員は第三者との濃厚接触を回避するため、公共交通機関を利用する場合は、混み合う時間帯をなるべく避けるように注意する。

② 移動中は、マスク着用を義務づける。

③ 球場への入退場は当日の球場責任者の指示に従う。

第 2・3 試合の部員の待機場所は、球場責任者から指示された場所で待機をし、前試合終了後に入れ替えを行う。学校関係者席のエリアについては、当日の球場責任者から指定されたエリアとする。ソーシャルディスタンスを考慮した感染防止対策を講じたうえで拍手のみの応援を行う。

④ 学校関係者エリアに入場するものは、マスク着用を義務づける。(フェイスシールド・マウスシールドのみは不可)

(2) 野球部員の行動

① 起床直後と出発前の検温を行う。

② ミーティングを行う場合は、隣同士との距離を空ける。

③ マスク着用を義務づける。(フェイスシールド・マウスシールドのみは不可)

④ 普段の生活から外部との接触は極力避け、感染防止に努める。

(3) 試合前後の流れ

① チーム全体でのミーティング、長時間の滞在を避ける。

② アルコール消毒液をダッグアウト、選手控え場所に配置し、適宜消毒を行う。

③ ウォーミングアップ時のマスク着用は必須としない。ただし、球場外でウォーミングアップをする場合、部外者の近くで行うこともあるため、マスク着用をすることが望ましい。

④ 攻守決定時や着替え時等の野球を行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること。

⑤ 選手はロッカールームの使用を原則禁止とする。

(4) 試合について

① 施設管理者からの指示を遵守するとともに、一校一試合あたり、球場施設内(試合前にベンチに入れる人数)は責任教師1名、監督1名、選手20名、記録員1名、練習補助員5名、マネージャー3名で、それ以上の人が集まらないように、参加チーム及び主催運営側で配慮すること。

② 試合開始時は、先発選手9名がホームベースをはさんで2 m以上の間隔をあけて両チーム向き合って整列し、挨拶を行うこととする。なお、声は出さず、会釈だけとする。

③ ダッグアウト内では選手同士の間隔の確保に努める。

④ 出場している選手以外の控え選手(ベースコーチを除く)及び責任教師・監督・記録員・ボールボーイは、マスクを必ず着用すること。

⑤ 素手でのハイタッチ、握手は控える。特に抱き合ったり喜んだりすることは厳に慎む。

⑥ 試合中、唾を吐く行為、手を舐める行為は禁止する。

⑦ 試合前やイニング間の円陣は一定の間隔を保つ。

⑧ 投手交代等でマウンドに集まる場合できるだけ間隔をとり、可能な限り接触を避ける。また、会話時はグラブを口にあてる。

⑨ ペットボトルやコップなどの共用は避ける。

⑩ 取材を受ける場合は球場責任者の指示に従い2 m以上の距離を保つ。(マスクの着用を義務づける)

⑪ 試合終了時は、ベンチ入り選手全員がホームベースをはさんで2 m以上の間隔をあけて両チーム向き合って整列し、挨拶を行うこととする。なお、声は出さず、会釈だけとする。

⑫ メガホンの使用は禁止する。

(i) 審判員

- ① 球審は試合中マスク着用を義務付ける。(フェイスシールド・マウスシールドのみは不可)
- ② 塁審のマスク着用は義務付けない。
- ③ 熱中症の予防には、十分に注意する。

6 【連盟の感染予防策】

- (1) 本部席、審判控室、記録室、放送室等は、使用する者が定期的に換気する。
- (2) 各諸室、関係者用トイレには、アルコール消毒液を配置し、消毒や手洗いを徹底する。
- (3) 球場内は、マスク着用を義務づける。(フェイスシールド・マウスシールドのみは不可)
- (4) 座席の間隔を一定の距離に保つ。

7 【報道関係者の感染予防策】

- (1) 記者席では、使用する者が定期的に換気する。座席の間隔は、一定の距離を保つ。
- (2) 記者席に入室出来る人数は各社 1 名のみとする。
- (3) 記者席には、アルコール消毒液を配置し、消毒や手洗いを徹底する。
- (4) 球場内は、常時マスク着用を義務づける。(フェイスシールド・マウスシールドのみは不可)
- (5) チーム関係者への取材は、取材対象者を事前に当日の球場責任者に通知する。
- (6) 取材する時は、2m以上の距離を保つ。なお、取材エリアは球場責任者の指定した場所のみとし、ぶらさがり取材、囲み取材は禁止する。
- (7) 取材の順番に関しては、当日の球場責任者が決めたチームからとし、時間は 10 分以内とする。

8 【観戦時の注意事項】

- (1) マナーを守ること。大声を出さず、拍手のみとする。得点時などに一カ所に集まって盛り上がる行為やタオルを回すなども感染予防の観点から禁止とする。
- (2) 隣席との間を開けて着席すること。マスクの着用を義務づける。
- (3) 試合中のファウルボールには十分注意すること。
- (4) 熱中症予防対策にも十分に配慮し、こまめに水分補給を行うこと。(ペットボトルやコップの共用は避ける)
- (5) 場内や球場周辺でゴミを絶対に捨てず持ち帰ること。

9 【感染者が発生した時の対応】

(1) 大会日までの対応

① 学校関係者

- ・チーム内において感染者が発生した場合は、チームの活動停止ならびに大会への参加を中止すること。ただし、試合日までに濃厚接触者の確認および濃厚接触者の陰性が確認され、学校及び部活動が正常になれば参加を可とする。
- ・当該校は感染者、感染者が疑われる者の人数や行動歴、保健所の指示を踏まえ、当該校校長が参加の可否を判断する。
- ・主催者は参加校校長の判断を尊重し対応する。しかし、当該校の感染状況(部内での集団感染や集団

感染が予見されるなど)によっては出場を差し止めることもある。

(2) 大会期間中の対応

① 責任教師

- ・責任教師はすみやかに学校及び連盟に報告し、保健所の指示、指導に従い感染者の隔離及び濃厚接触者（濃厚接触の可能性のある者を含む）の合宿所もしくは自宅待機の措置を行う。
- ・万が一、感染者が発生したとしても、その者を誹謗中傷したり、非難したりすることが無いように配慮すること。

1 0 【緊急事態宣言等が発令された場合の対応】

政府や千葉県から、緊急事態宣言に伴うイベント等の自粛要請が出された場合は、大会を中止とする。

1 1 【その他】

なお、本ガイドラインに記載されていない事象が発生した場合、連盟が協議の上対応する。

以 上

【付記】

新型コロナウイルス感染症対策に関わる必要書類〔様式 23-1（選手用）、3（行動記録）〕については、千葉県高校野球連盟HPダウンロードページから取得してください。